

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市工業高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸ばし、心豊かな人間性を備えた生徒 ○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍、充実した学校生活を期待している。</p> <p><保護者> 子どもたちの進路希望の実現と人間的成長を求めている。</p> <p><企業等> 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭・保護者> 連携・協力するために、学校の取組等についてさらなる情報発信</p> <p><中学校・小学校等> 出前授業、Web ページ等をとおして、学校生活の様子、専門教育の学習内容、部活動の様子などの情報発信</p> <p><企業・地域等> 心身ともに健康な人材の育成 地域活性化につながる活動への参画</p>	<p><家庭・保護者> 本校教育方針への理解と協力 役割と責任の自覚及び相互の連携・協力</p> <p><中学校・小学校等> 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有</p> <p><企業等> インターンシップ等についての連携と協力、課外活動への支援</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業までの3年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。 ・ 人権教育については、たいへん有意義であった。次年度向けに教材研究や講師の選定など、引き続き検討を深める必要がある。 ・ 地元小学生へのものづくり体験教室は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義があり、継続・発展を期待する。また、このような活動が生徒の専門性を深め、コミュニケーション力を高めることにつながっている。 ・ 災害時には高校生の協力が求められることから、災害を想定した地域との事前調整等が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が「学びの精神」を忘れず、生徒理解、支援体制を充実させ、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力することが必要である。	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分掌、工業各科、学年間の連携がスムーズになり、教職員間で情報が共有されているため、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。 ・ 就職希望者の内定率100%を維持している。 ・ 放課後や休日等の指導もあり、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。 ・ 7学科24学級の大規模校であり、学科による指導にばらつきがでる。 ・ 各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変化の激しい時代をしなやかに生きるために必要な力（生きる力）を身に付けさせるための活動を継続的・体系的に実践する。「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに職業人としての「生き方・あり方」について考える教育に取り組む。 ・ 経済、産業、文化等、さまざまな面でグローバル化が進展する中、価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する関心や理解を高めるために、海外インターンシップや外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。 ・ 生徒や保護者が四日市工業高校に「入学して良かった」と感じ、生徒が自己実現を図ることができるよう、全職員が連携した指導体制及び支援体制を強化する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会から信頼される学校づくりのため、教職員間の共通理解と協同性を大切にし、常に前向きにチャレンジし続けることができる職員集団を作る。 ・ 人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。 ・ 生徒会活動や部活動など自主的な活動を一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。 ・ 部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（1日/週）する。 ・ 会議の精選と効率化により会議時間を減少する。また、報告書類等の内容を見直し、事務処理を軽減することで労働時間の縮減を目指す。さらに、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために定時退校日を設ける。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実と資格取得	<p>授業を大切にし、基礎学力を向上させる。</p> <p>学習成果の指標として学科毎に特色のある資格試験や検定試験に取り組む。</p> <p>(物質工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生での危険物取扱者乙4類全員合格を目指す。 また、3年間で危険物取扱者全類合格者80%以上を目指す。 <p>(機械科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能検定（旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ）の合格率100%を目指す。 ・ 3年間で危険物取扱者試験乙種第4類取得90%以上を目指す。 <p>(電子機械科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種資格取得に取り組み、合格率を前年より上げる。 ・ 第二種電気工事試験、技能検定（マシニングセンタ、シーケンサ）、ITパスポート、情報技術検定、製図検定、ガス溶接技能講習、危険物取扱者試験 <p>(電子工学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格、検定試験合格者数のべ120人を目指す。 <p>(電気科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4級品質管理検定60%以上を目指す。 ・ 第二種電気工事士合格率70%以上を目指す。 <p>(建築科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2級建築施工管理技士（学科試験）、建築CAD検定3級合格率がそれぞれ全国平均以上となることを目指す。 ・ 情報技術検定3級で全員合格を目指す。 ・ 計算技術検定3級で全員合格を目指す。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定3級（建築大工）の受験と全員合格を目指す。 ・4級建設業経理事務士の全員合格を目指す。 <p>（自動車科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算技術検定の合格率100%を目指す。 ・情報技術検定試験の合格率100%を目指す。 ・ガス溶接技能講習修了証の取得率100%を目指す。 ・自動車整備士試験の100%合格を目指す。 		
キャリア教育 の充実	<p>キャリア教育を進推進し、職業観・勤労観を醸成する。 インターンシップの成果発表会を行い、全ての生徒が働く意義と仕事をする事の重要性を確認する。 2年次において生徒の60%以上がインターンシップに参加する。 コミュニケーション能力の向上を図るとともに、「報告・連絡・相談」の習慣を身につける。 進路講話、卒業生との懇談会等を実施する。 ミスマッチをなくすため、応募前企業見学を実施する。 1年次より進路の意識付けのガイダンスを実施し、自己に適した進路を主体的に選択できる力を養う。 3年生の就職希望者の就職内定率及び進学希望者の合格率100%を目指す。 学校図書の間貸出数8000冊を目指す。 みえ未来人育成塾などの教育委員会等が主催する生徒が主体となる行事等に参加する。（3回以上）</p>		
人権教育	<p>人権LHR等をとおして人権感覚を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権LHRを1学期と2学期に全学年実施する。 ・いじめアンケートを年3回行う。 ・人権だよりを通して人権の啓発や情報の発信を年3回以上行う。 ・命を大切に教育を行う ・修学旅行先の沖縄について取り上げ、平和学習の一環とする。 		
生徒指導	<p>基本的な生活習慣の確立について取り組む。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組む。 ・来客者や教員に対するあいさつ・礼儀作法を身につけ、社会で生きていくために必要な力を養う。 <p>交通事故防止に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導により、交通マナーの順守を徹底する。 ・自転車通学の安全とマナー向上を図るため、講話・指導の実施とともに、自転車点検を年間2回実施する。 <p>環境美化活動に取り組む。</p>		
保健管理	<p>視力と歯についての指導を重点課題ととらえ保健指導を行う。</p> <p>生徒保健委員会による保健だよりを年5回以上発行し、生徒自身が健康について考える機会とする。また、保健便り「すこやか四工」を毎月発行し、健康への関心を高める。</p> <p>「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」を各年1回実施する。</p>		
地域・保護者との連携	<p>保護者との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。 地域の小中学校と連携した出前授業、学校説明会等を10回以上行う。 企業訪問により企業等の連携強化を図る。（企業訪問100社以上）</p>		

改善課題

(年度末に記載)

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>社会から信頼される学校づくりのため、保護者や地域等からの要望を受け入れ、学校・保護者・地域が一体となって開かれた学校運営を行う。そのために、教職員間の共通理解と協同性を大切に、常に前向きにチャレンジし続けることができる職員集団を作る。</p> <p>人権教育を計画的、継続的に推進するため、人権教育推進委員会を開催する。(年間11回)</p> <p>生徒に「生きる力」をつける環境づくりのため、授業変更や特別時間割の工夫により、自習課題時間を減らし授業時間の確保に努める。</p> <p>部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定(1日/週)する。</p> <p>「働きやすい職場」をつくる。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、報告書類の内容の見直し等による事務処理の軽減などにより、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場づくり」を目指す。そのため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇取得日数の前年比1日増を目指す。 ・ 定時退校日(1日/月)を設ける ・ 会議内容の精選と効率化により会議時間を1時間以内とする。 <p>特別支援教育推進委員会を年5回開催し、職員が支援を行えるように情報共有を図る。</p> <p>学期に1回以上「学校保健委員会」を開催し、学校医との連携・情報交換を密にする。(年間で4回以上開催)</p> <p>保健部と関係教員が共通理解のもと個々の生徒に応じた健康管理に対応する。</p> <p>授業や資格取得に有用な図書を整備する。また、読書活動を推進するため、生徒のリクエスト本を整備する。</p> <p>平成30年度に設立する専攻科について、組織的に準備する。</p>	(年度末および適宜記載)	

改善課題

(年度末に記載)

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

(年度末に記載)

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)